

「輪ゴムのヨーヨー」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

「輪ゴムを使ったおもちゃづくり」は、3年生の子どもにとって魅力的な活動である。輪ゴムが伸びで、もとの大きさに戻ろうとする性質を、遊びながら体感できるからだ。大切なことは、特別な材料を使わずに、できるだけ身近な素材で作ることである。



人気があるのが「紙コップロケット」である。普通の紙コップ2個を使って簡単に作れる。一方の口に輪ゴムを十字型にかけて、もう一方を発射台にする。このおもちゃの面白いところは、輪ゴムの本数や張り方で、飛ぶ高さが大きくちがうことである。これは、輪ゴムの反発力の強さが、初速に反映される為である。



もう一つ、子どもたちが夢中になるのが、「R1ヨーヨー」である。「R1」というのは、乳酸菌飲料の

小さなペットボトルのことだ。これは実に用途が広く、私は常に200個以上の在庫を持っている。この容器の口に輪ゴムを結び、さらに3本か4本の輪ゴムをつな



いだだけの、単純な構造だ。しかし、これが面白い。中が空っぽだと、ゴムはあまり伸びないが、水やビー玉を入れて適度に重くすると、夜店のヨーヨーとそっくりな感覚で遊べる。写真は水とビー玉の作品。

一見教材性が低い遊びに見えるが、そうではない。輪ゴムの本数、輪ゴムの太さ、おもりの重さなどを、子ども自身の工夫で自由に変えられ、それによって、弾力や反発の感触が変わってくるのだ。



「R1」の小さなペットボトルは、オクラの水やりにも使っている。「一回に1本分の水(約120cc)で、一日2回」という目安がつかみやすい。水道との往復にもヨーヨーができるので、楽しみが増えたようだ。